

入選

小さな親切がぼくを生かす

大阪府 旭陽中学校 2年 村田 亜聡

ぼくは小学2年生のとき、いじめられてPTSDを発症しました。この病気を回復させるには、周囲の正しい理解と適切な環境が必要なのですが、なかなか難しくても以前のような暮らしは取り戻せていません。絶望しそうになったこともあったけれど、ぼくは寄り添ってくれる方々の愛情によって、今、生かされています。

これまで、病気の症状によって、学校に行きたくてもみんなと同じように行けないもどかしさの中、ぼくのことを好きだからという理由で、家庭訪問してくれる方がいます。60歳以上年が離れていますが、一人で外に出るのが大変なぼくといっしょに、散歩をしてくれたり、ぼくの悩みを聞いてくれたりします。

今年の夏休みも二人で散歩をしました。とても暑かったので、二人でたくさん汗をかいて、「参ったな」と言いながら歩きましたが、そのとき、心が跳ねるようにうれしくて胸が温かくなりました。

人といっしょに笑ったり困ったり、大事な時間をいっしょに過ごすことは幸せなことだと改めて思いました。

ぼくには、ほかにも気遣ってくれる人はたくさんいます。小学校の音楽の先生も、今もいっしょに歌を歌ってくださいます。音楽のすばらしさを教えてくださいます。小学校を不登校状態で卒業してしまったぼくにとって、卒業しても覚えてくださる先生がいるのは、自分の存在が肯定されたようで自信になります。

また、直接的な問題を解決できないけれど、自分にできることがなにかないかなと考えて励ましてくれたり、参加できそうなイベントを紹介してくださったり、勉強を教えてくださいたりする方々もいます。そういった方々の親切が、ぼくの心を支えてくださいました。

人を傷つけるのも人だけど、人を支えられるのも人だし、一人の人として気遣ってもらえたり、日々の生活の中で、家族でもなんでもないぼくのことを思い出してもらえたりすることは、すごく光栄でうれしいし、生きる力になることを学びました。

病気になったことで、小学校生活を学校で過ごすことや自由な生活は失ってしまったけれど、これまで多くの人々の親切によって、ぼくは生かされてきました。まわりの人から大切にされてきたぼくだから、自分のことをこれからも大切に、そして困っている人がいたら自分にできることをさがして、その人に寄り添える人間になりたいと思います。

最後に、ぼくのことを特別な人間でもなんでもなく、一人の人としてふつうに接してくれる方々、本当にありがとうございます。ぼくはかわいそうな子でもなんでもなく、みなさんのおかげで恵まれた子だと気づけました。病気が回復すれば、もっとみなさんと楽しい時間が過ごせると思うので、あきらめずにがんばります。これからも、よろしくお願いします。